会社概要／株式の状況(2020年9月30日現在)

会社概要

社名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設立	1953年8月27日
資本金	3,685,600,000円
従業員数	単独 870名　連結 6,985名
本社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地 04-2955-1211(代表)

役員

代表取締役社長	加藤　憲嗣	常務執行役員	木原　浩之
常務取締役	三島　清憲	常務執行役員	長谷川吉保
取締役	松原　美樹	常務執行役員	堀田　貢市
取締役	藤井　康裕*	常務執行役員	和田　尚宏
取締役	飯田　藤雄*	常務執行役員	太田　貞幸
常勤監査役	根岸　昭雄	常務執行役員	橋本　行弘
監査役	富永　和也*		
監査役	村松　昌信*		
監査役	松本　卓也*		

(注.1) 藤井 康裕氏および飯田 藤雄氏は、「会社法」第2条第15号に定める社外取締役です。
(注.2) 富永 和也氏、村松 昌信氏および松本 卓也氏は、社外監査役です。

株式の状況

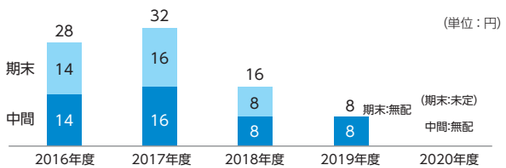
発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	3,439名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	12,103	50.41
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロープライスド ストック ファンド(プリンシパル オール セクター サブポートフォリオ)(常任代理人　株式会社三菱ＵＦＪ銀行)	880	3.67
大竹 好子	769	3.20
株式会社三井住友銀行	457	1.90
埼玉車体株式会社	438	1.82
株式会社三菱ＵＦＪ銀行	350	1.46
大竹 譲司	341	1.42
大竹 隆之	333	1.39
八千代工業従業員持株会	332	1.38
大竹 守	326	1.36

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

配当金の推移



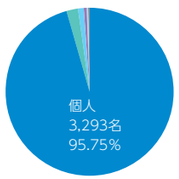
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、世界的視野に立って事業を展開し、企業価値の向上に努めております。

成果の配分にあたりましては、今後の資金需要などを総合的に考慮し、配当につきましては、長期的な視点に立ち連結業績を考慮しながら実施することを方針としております。

所有者別株式の分布状況

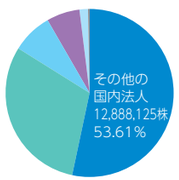
株主数および比率（合計3,439名）

外国人	72名	2.09%
その他の国内法人	38名	1.10%
証券会社	25名	0.73%
金融機関	10名	0.29%
自己名義	1名	0.03%



株式数および比率（合計24,042,700株）

個人	7,312,999株	30.42%
外国人	1,881,578株	7.83%
金融機関	1,523,600株	6.34%
証券会社	407,023株	1.69%
自己名義	29,375株	0.12%



八千代工業株式会社
埼玉県狭山市柏原393番地
電話04 - 2955 - 1211(代表)　https://www.yachiyo-ind.co.jp/

UD FONT　FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915　VEGETABLE OIL INK

YACHIYO

株主の皆さまへ

2020年度(第68期)上半期
2020年4月1日～2020年9月30日

八千代工業株式会社
証券コード:7298

Index

社長メッセージ……1
地域別セグメントの業績（上半期）……5
連結財務諸表……6
FOCUS……7
社外取締役のご紹介……9
当社グループの主な製品……10
会社概要／株式の状況……裏表紙

モビリティのキーカンパニーを目指し成長への基盤づくりを進めていきます

代表取締役社長　加藤 憲嗣

Q1. 社長就任から４カ月余りが経過しましたが、あらためて経営トップとしての考えをお聞かせください

私は昨年４月、本田技研工業株式会社（以下、Honda）から当社へ赴任し、生産改革とリスクマネジメントの担当を経て、今年６月に代表取締役社長を拝命しました。

Hondaでは1985年の入社以来、主に生産畑を歩んできました。最初は鈴鹿製作所の塗装部門に配属されたので、塗装をルーツに持つ当社との縁を感じます。また、塗装工場長を務めていた頃は、軽自動車を受託生産していたかつての当社四日市製作所（現 ホンダオートボディー株式会社）との行き来もありました。Honda在職時は中国でも経験を積み、広州市と武漢市にそれぞれ６年駐在しました。

八千代工業という会社の強みは、「現場力」にあると捉えています。営業、開発、生産から管理に至るまで、各現場が自らの工夫と努力で問題を解決する力を備え、それらを発揮することで成長を遂げてきたといえるでしょう。

当社は、前期（2020年３月期）まで２期連続で減収減益決算となり、早期の業績回復を目指しています。需要減少が続く日本、生産体制の立て直しを進める米州、市場の伸びに追従する中国、緊迫した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）への対応が続くアジアと、グローバル４地域それぞれに状況が異なり、各地域に合わせて事業の盤石化を進めています。

「現場力」の強みを活かし、各事業の健全性を高めながら、中長期の成長に向けた事業基盤を着実に構築・強化すること。私はこれを自らのミッションとしており、全力を挙げて取り組んでまいります。

Q2. 業績改善に向けた取り組みについてご説明ください

前期に終了した第13次中期事業計画（2018年３月期～2020年３月期）では、米州および日本の事業の健全化と品質保証体制の強化が課題として残り、「2020年ビジョン」で目指した「真のワールドワイドプレイヤー」の実現については道半ばとなりました。しかし、中南米やアジアにおける生産拠点の確立や、中国における生産能力の拡大など、よりグローバルサプライヤーとしての体制が整い、各地域で成果を上げることができたと捉えています。

当社はこれらの課題と成果を踏まえ、10年後に向けた長期ビジョン「Yachiyo Vision2030」を掲げ、そのファーストステップとなる第14次中期事業計画（2021年３月期～2023年３月期、以下14中）を始動しました。14中を「さらなる成長の基盤づくり」と位置づけ、生産改革を中心とする業績改善策を推進し、日本および米州をはじめ、全地域の黒字化を目指します。

生産改革では、品質の高位平準化を図るとともに、原価構造を見直し、収益性を高めます。一例として燃料タンクでは、成形後に構成部品の溶着等を行う「二次加工」工程において、工数の少ないタンクでも設備を停止させず、さらに他のタンクの同時生産を可能にするなど、生産効率のさらなる向上を目指した、工程レイアウトの抜本的な見直しなどに着手しています。燃料タンクおよびサンルーフについては、今後の生産量の大幅な増加は見込みにくいため、現状の生産規模でも確実に収益を上げられる筋肉質な生産体質を構築していきます。

2021年3月期は、日本、米州、アジアで、COVID-19の影響による受注減少が生じているものの、中国の事業環境は急速に回復しており、また今期は、前期に計上した減損損失等が発生しないため、通期業績としては、減収ながら営業利益および税引前利益で増益を見込んでいます。

Q3. 10年後を見据えた長期の展望をお聞かせください

「Yachiyo Vision2030」では、10年後の当社のありたい姿を「ものづくりの弛まぬ進化で、モビリティのキーカンパニーになる」と掲げました。CASE※に代表される自動車産業の変化に対応すべく、今後、当社が勝負していく領域を「モビリティ」として幅広く捉え、そこで世界中のお客さまから当社の技術・製品が必要不可欠とされる存在を目指します。

主力製品の展望を述べますと、燃料タンクは、「二次加工」の例で挙げた施策等の推進によってコスト競争力を高める一方、高圧密閉仕様によるハイブリッド車への対応や、燃料電池車用水素タンクなどのエネルギーストレージ展開を推進します。サンルーフは、引き続き需要が見込める北米や中国の市場を中心に、パノラマ仕様の拡大や電動車向け超軽量薄型ルーフモジュールの開発などを進めていきます。そして、燃料タンク、サンルーフに続く第３の事業の柱として注力する樹脂製品は、軽量なモジュール技術を追求し、広く自動車メーカーに提案していく考えです。

これまでも当社は、自動車産業の変化に対応し、技術・製品を進化させてきました。これから先モビリティの重要部分を担っていくためには、より多くの要素を柔軟に取り入れ、進化し続ける必要があるでしょう。

セクショナリズムを排した「ワンチーム・ワンヤチヨ」の一体感と、女性の活躍推進をはじめとする多様性の積極的な導入を通じて、従業員には、柔軟で新しいものづくり進化に果敢に挑戦してほしいと思います。その環境づくりも、私の重要な任務のひとつです。

Q4. 株主の皆さまへのメッセージをお願いします

このたびの中間配当は、誠に遺憾ながら無配とさせていただきました。期末配当予想については、COVID-19の拡大による業績への影響など不確定要素があるため、現時点で未定としております。株主の皆さまには、何卒ご理解いただきたくお願い申し上げます。

ここ数年ご心配をおかけしてきた米州事業の立て直しが進展し、日本の事業体質改善策も着々と進めることができています。当社は引き続き、事業の健全化と社内の風土改革を推進し、14中のマイルストーンとして掲げる「さらなる成長の基盤づくり」を着実に遂行します。同時に事業活動を通じて環境保全に寄与し、社会課題の解決に向けた役割を果たしながら、企業価値をさらに高めてまいります。

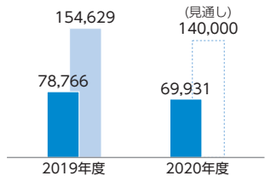
株主の皆さまにおかれましては、10年後を見据えた当社の発展にご期待いただき、今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※ CASE：Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared（シェアリング）、Electric（電動化）それぞれの頭文字をとった略称

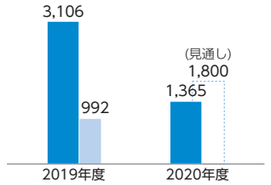
連結業績ハイライト

■上半期 ■通期
（単位：百万円）

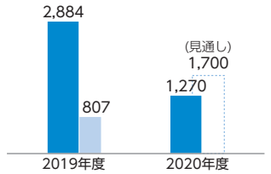
売上収益
69,931 百万円
（前年同期比11.2%減）



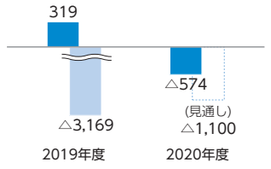
営業利益
1,365 百万円
（前年同期比56.1%減）



税引前利益
1,270 百万円
（前年同期比56.0%減）

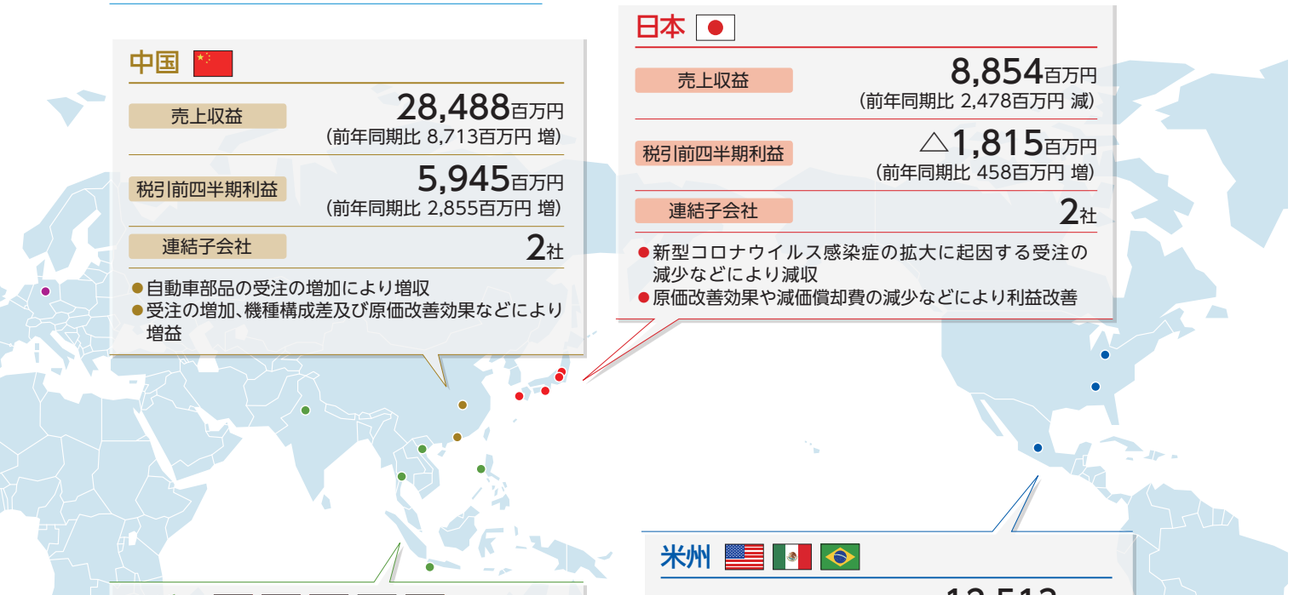


親会社の所有者に帰属する当期利益
△574 百万円



当社は、国際会計基準に基づいて連結財務諸表を作成しています。

地域別セグメントの業績（上半期）



中国

売上収益	28,488百万円（前年同期比 8,713百万円 増）
税引前四半期利益	5,945百万円（前年同期比 2,855百万円 増）
連結子会社	2社

- 自動車部品の受注の増加により増収
- 受注の増加、機種構成差及び原価改善効果などにより増益

日本

売上収益	8,854百万円（前年同期比 2,478百万円 減）
税引前四半期利益	△1,815百万円（前年同期比 458百万円 増）
連結子会社	2社

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に起因する受注の減少などにより減収
- 原価改善効果や減価償却費の減少などにより利益改善

アジア

売上収益	20,077百万円（前年同期比 8,339百万円 減）
税引前四半期利益	△23百万円（前年同期比 2,523百万円 減）
連結子会社	7社

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に起因する受注の減少などにより減収減益

米州

売上収益	12,513百万円（前年同期比 6,731百万円 減）
税引前四半期利益	△2,932百万円（前年同期比 2,468百万円 減）
連結子会社	7社

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に起因する受注の減少などにより減収減益

（ご参考）製品別の売上収益

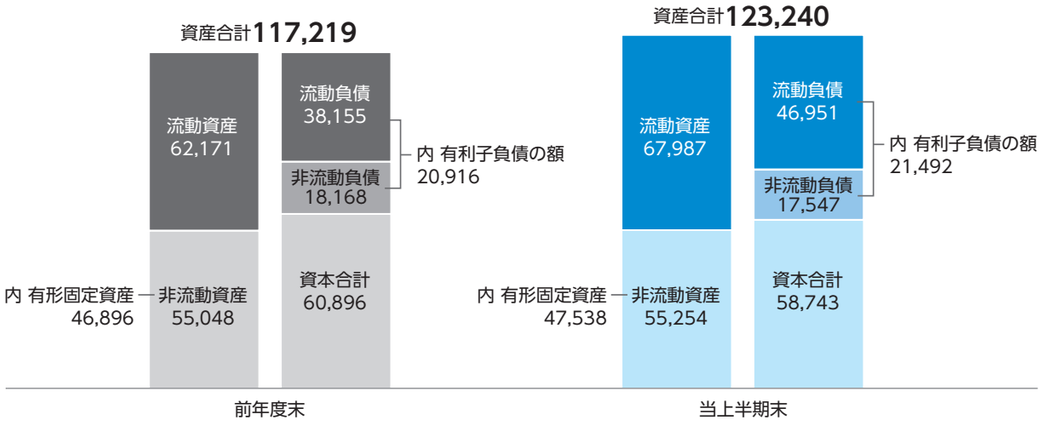
燃料タンク	20,548百万円（前年同期比 1,150百万円 減）	二輪部品	20,737百万円（前年同期比 7,925百万円 減）
サンルーフ	23,937百万円（前年同期比 757百万円 増）	その他	4,709百万円（前年同期比 517百万円 減）

※その他の内訳：補修パーツ、板金部品、樹脂・塗装など

連結財務諸表

連結財政状態計算書

（単位：百万円）



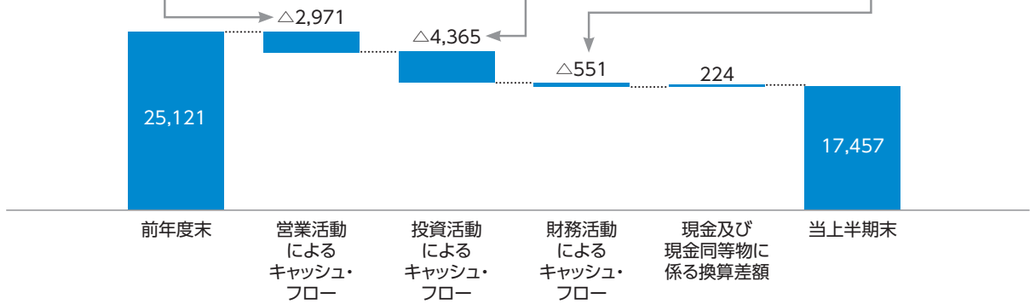
連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

税引前四半期利益	1,270
減価償却費及び償却費	3,535
営業債権及びその他の債権の増加	△12,898
営業債務及びその他の債務の増加	5,146
その他	△24

有形固定資産の取得	△4,806
その他	441

長期借入金の返済による支出	△476
短期借入金の純増額	1,148
非支配持分への配当金の支払い	△849
その他	△374



FOCUS

ものづくりの弛（たゆ）まぬ進化で モビリティのキーカンパニーになる

～Yachiyo Vision2030～ を策定

当社は、創業者 大竹榮一氏が起こした塗装業からスタートし、現在生産している燃料タンク、サンルーフなどの機能部品のほかにも、過去には板金骨格部品や軽自動車の生産までも手掛け、お客さまニーズに柔軟にお応えして、ものづくりの経験とノウハウを蓄積してきました。

自動車産業は今、大きな変革の時期を迎え、特にこれからの10年は、電動化や自動運転化など、クルマに求められる価値の変化がますます加速していきます。当社は、新たな価値の創造を視野に入れた長期ビジョン「Yachiyo Vision2030」(以下、Vision2030) を策定し、そのステートメントを「ものづくりの弛まぬ進化で、モビリティのキーカンパニーになる」と定めました。

常に時代の先をいく、お客さまの期待を超えるものづくりを、進化させ続けるという意志を「ものづくりの弛まぬ進化」と表現し、当社が勝負するステージを「モビリティ」と定めました。そして「キーカンパニーになる」には、期待される、頼りにされる企業になるという決意を込めています。

また、Vision2030を策定するにあたっては、企業活動の根幹となる「ヤチヨ企業理念」を再確認し、また、歴史の中で得たノウハウや教訓、共通の価値観を念頭に、当社の「強み」や「存在意義・使命」を明確にしています。

このVision2030の実現に向けては、中期３年ごとのステップを定めて、成長・飛躍を図ります。2020年4月からスタートした第14次中期は、「さらなる成長の基盤づくり」と位置づけています。生産体質や品質の盤石化をやりきり、筋肉質な体質づくりを着実に実現する中期とし、重点施策とその達成目標値を定めて事業を推進しています。

当社は、全従業員一丸となって、Vision2030の実現に向けて邁進していきます。どのような製品や価値がお客様に喜んでいただけるのか、生活を豊かにすることができるのか。お客様の笑顔を思い浮かべながら、これまでに培った「ものづくり力」と「人間力」を最大限に発揮して、永続的な発展を図ってまいります。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

当社企業サイトでは、この先の苦難や失敗を全従業員の総力で必ず乗り越え、世の中の皆さまに喜んでいただける製品や価値をお届けする…その想いを込めたイメージビデオを公開しています。ぜひご覧ください。

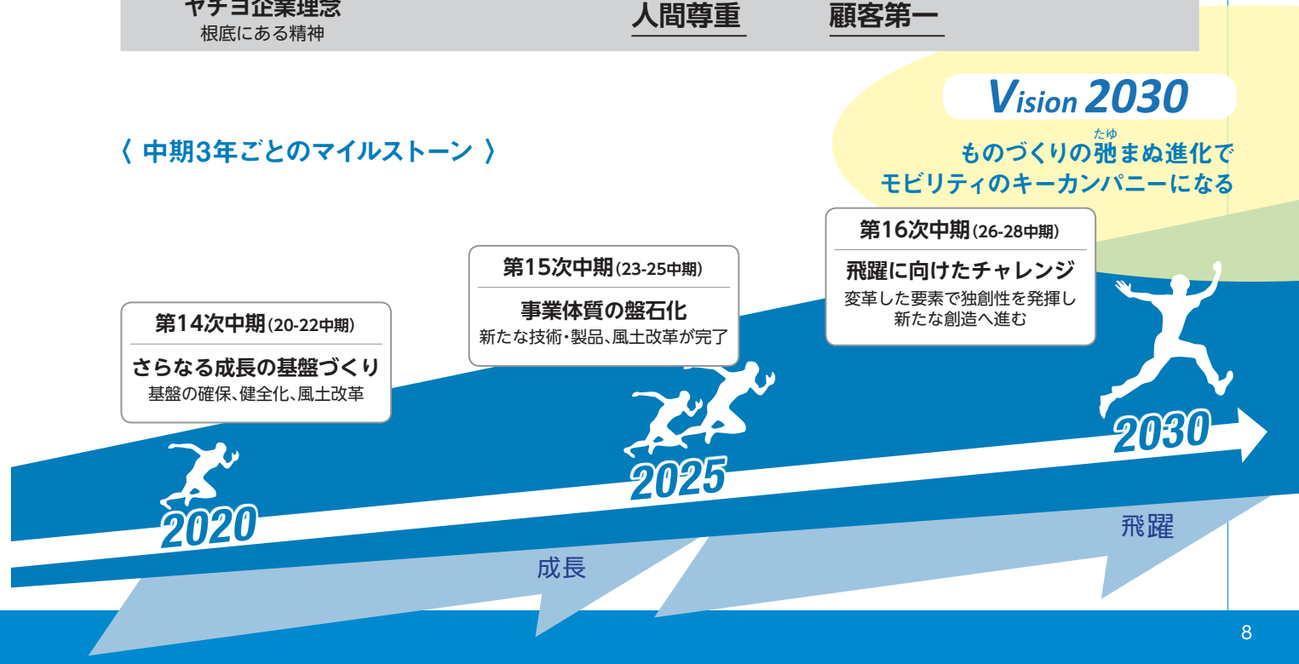
Vision2030イメージビデオはこちらから

Vision 2030

ものづくりの弛（たゆ）まぬ進化で モビリティのキーカンパニーになる

ミッション 存在意義・果たすべき使命	心をこめたものづくりで世界中の人たちを笑顔にする			
コアコンピタンス 強み・こだわり	ものづくり力 × 人間力			
コアバリュー 大切にしたい基本的価値観	情熱 Passion 信念・夢を持って あきらめずやりぬく	チャレンジ Challenge 困難を乗り越えて 前進していく	笑顔 Smile 人々の心を動かし 感動を与える	楽しむ Fun 喜びと充足感を共有し 期待に応え続ける
ヤチヨ企業理念 根底にある精神	人間尊重	顧客第一		

〈 中期3年ごとのマイルストーン 〉



社外取締役のご紹介

当社は、2020年４月からスタートした第14次中期を「さらなる成長の基盤づくり」と位置づけて事業を推進する中、ガバナンス・内部統制の強化を目的として、６月から２名の社外取締役を迎えました。

藤井康裕氏は、大手電子部品メーカーでの幅広い業務経験と、企業経営に関する豊富な経験・知見があり、当社では製造業に精通したそれら見識からの提言、独立した立場からの経営の監督等を担っています。

飯田藤雄氏は、弁護士としての専門的な知見と、行政や企業の第三者委員会委員としての経験があり、当社ではガバナンス強化に繋がる提言、公正かつ客観的な視点からの経営の監督等を担っています。

社外取締役　**藤井 康裕**

一昨年まで、上場電子部品製造会社で役員期間を含め43年間働いてきました。国内外で、製造、製造技術、設計、営業、海外子会社や開発子会社の経営など、さまざまな仕事に携わりました。監査役時には、コーポレート・ガバナンスの視点を学び、社内通報の窓口も担いました。

当社ではこの経験を活かして、経営判断の客観性に貢献したいと考えています。そのための第一歩として、現在、生産現場を回り、また経営の方向性議論に加わる中で、当社への理解を深めているところです。

当社が持続的に成長し、株主様をはじめとしたステークホルダーの皆さまの利益に繋がるよう尽力していきます。

社外取締役　**飯田 藤雄**

弁護士としてこれまで、複数の不祥事の原因究明調査、再発防止策立案に携わってきました。関係者のヒアリングで、真面目な普通の従業員が、部門だけの利害や目先の事柄にとらわれて不祥事を起こし、企業価値を大きく毀損する場面に直面してきました。

このような経験から、就任時には、手段や行動は変化しても、目標は普遍的かつ不変でなければならないと社内に発信しました。当社はかねてより、全員がベクトルを合わせてワンチームとなることを目標に掲げています。各部門の従業員が連動し、企業価値向上という普遍的かつ不変の目標に邁進するよう、尽力していきます。

当社グループの主な製品
Main products